

備えあれば憂いなし

院長 永井 俊一

あけましておめでとうございます。昨年は東日本大震災や原発の事故などいろいろなことがあり、大変な年でした。想定外という言葉も頻繁に使われましたが、地震の被害だけでなく、長時間の停電や流通の断絶など、生活の面でも想定外の経験でした。災害の準備はしていたつもりですが、認識が甘かった点も多く、いろいろ気付かされる点がありました。

当院では以前から停電に備えて自家発電機を準備したり、火災や地震に備えて避難訓練を行ってきましたので、大震災の時の避難誘導はうまくできましたし、その日と翌日の停電も、自家発電を行って普段通りに診療を行うことができました。一方で問題点として、自家発電はしたもののテレビに非常電源がつかないなかったため見る事ができず、被害の状況を全く把握できませんでした。対

策として待合室のテレビも自家発電で見られるようにし、電気が止まってもバッテリーで4時間見られるテレビを新たに購入しました。落下防止のための粘着性の耐震マットは非常に効果的で、ほとんど落下物はありませんでしたが、薬品棚が転倒したり書庫が移動したりしたので、倒れたりずれたりしないような補強を行いました。

今回の震災で明らかになったことは、直接の被害が少なくても、流通がストップすると生活に大きな影響が出るということです。今後30年以内に関東で大きな地震のおこる確率は70%だそうですので、最上町に大きな地震がおこらなくても、流通が麻痺した昨年のような事態は起こりえるということです。また地震以外にも、新型鳥インフルエンザが流行した場合など、外出や移動が制限される事態が

おきる可能性もあります。災害に直面してからいろいろなものを買集めると買い占めと非難されますが、平常時に備蓄しておくことは大切だと思います。非常用食糧の確保を兼ねて、今回「救世鳥プロジェクト」に参加することにしました。3年間賞味期限があるパンの缶詰を購入し、2年間は非常時の食糧として手元に備蓄しておき、2年が過ぎると回収され、飢餓に苦しむ人々を救う義援物資として世界各地に届けられるというものです。災害は忘れた頃にやってくると思います。最悪の事態を想定して、いつ災害がおきても対応できるだけの準備をしておきましょう。

